

意図的な隠れたカリキュラム

氏原 陽子

Intentional Hidden Curriculum

Yoko UJIHARA

1. 問題意識

「カリキュラム」(curriculum)という用語は、競馬場の競走路を意味するラテン語cursumを語源とし、「人生の来歴」を含意する言葉¹⁾であるが、転じて学校で教えられる教科目やその内容および時間配当など、学校の教育計画を意味する用語となった(柴田, 2001)。用語「カリキュラム」の最初の使用例は、グラスゴー大学の記録(1576)に遡ることができる。そこでは、「カリキュラム」は各学生がそれに沿って進んでいかねばならない複数の全課程に関連して使用されている。これにより、「カリキュラム」は構造と規律という2つの属性をもった、連続的な教育という意味で用いられるようになった(Hamilton, 1989)。陸上競技のトラック種目に喩えると、カリキュラムは伝統的に、選手である子どもが「入学」というスタートラインに並べられ、目の前につくられた学ぶための走路を、「卒業」というゴールをめざして全力で駆け抜けること、すなわち「走路」に力点が置かれた(赤沢, 2011)。

20世紀初めになると、カリキュラムを教育的経験とみなす考え方が登場する。デューイ(Dewey, 1899, 1902)は、実験学校での実践を通じて、子どもの生活・経験を中心としたカリキュラムを提唱した²⁾。ボビット(Bobbitt, 1918)によると、カリキュラムは、子どもや青年がしなければならない、経験しなければならない、一連の事柄である。これにより、先の陸上競技のトラック種目の喩えを用いると、子どもが走路を実際にどのように走るか、そのなかでどのような学習経験を積み重ねるかに力点が置かれるようになった(赤沢, 2011)。

カリキュラムの力点の移り変わりは、カリキュラム概念の拡大を意味していた。カリキュラム概念の拡大により、隠れたカリキュラム概念は「発見」される。1960年代後半、ジャクソン(Jackson, 1968)は、「隠れたカリキュラム」(hidden curriculum)という用語を用いた最初の研究で、子どもが学校に適應するために学ばなければならない道徳的規範を隠れたカリキュラムとして描き出した。1970年代後半までには、道徳的規範に隠されるイデオロギーを隠れたカリキュラムと捉えるボウルズとギンタス(Bowles & Gintis, 1976)、アップル(Apple, 1979)、教師—生徒の相互作用にみられる解釈枠組みを隠れたカリキュラムと捉えるスタブス(Stubbs, 1976)、学校の進級制度を隠れたカリキュラムと捉えるイリッチ(Illich, 1970)など、「隠れたカリキュラムの系譜」とも言える研究が蓄積された。しかし、隠れたカリキュラムは今日においても議論される概念である³⁾。

隠れたカリキュラムの定義として、「とりわけ言明されているわけではなく、また自覚的、意図的に計画されているわけでもないが(その意味ではまさに『隠された』かたちで、『潜在

的に』存在している)、もうひとつの「カリキュラム」(長尾, 1990, p.90)、「生徒たちが暗黙に、無意図的に学ぶことを求められ、結果的に生徒たちが身につける教育内容」(田中, 1996, p.84)と、「意図されない学習内容」と捉える定義が優勢である⁴⁾。

隠れたカリキュラムを「意図されない学習内容」と捉えることによって、教師に教育実践を批判的に省みる機会を与えたことは評価できる。例えば、森田(2005a,2005b)は隠れたカリキュラム概念を用いて、いじめ指導の意図と被害者の受け止め方のずれを報告する。古くからの言い回しを用いると、『意図された教育内容』と『実践された教育内容』、『実践された教育内容』と『経験された教育内容』との間にはずれがある」。1990年代後半にブームとなったジェンダー・フリー教育⁵⁾は、無意図的な、子どもの価値観の形成に大きく影響を及ぼす働きを隠れたカリキュラムと捉え、隠れたカリキュラムの点検を教師に促した。

しかし、意図的な隠れたカリキュラムもあるのではないだろうか。そうだとすると、隠れたカリキュラムはどのように捉えられるのだろうか。本論文は、まず「意図されない学習内容」としての隠れたカリキュラムの系譜として、ブルームの隠れたカリキュラム論を概観し、その意義と問題点を明らかにする。次に、意図的な隠れたカリキュラムの理論的・実践的根拠を明らかにする。最後に、意図的な隠れたカリキュラムを踏まえて、隠れたカリキュラムの捉え方、及び定義を提起する。

2. ブルームの隠れたカリキュラム論

ブルーム(Bloom, 1972)は、「学習されるべき内容」を意味する顕在的カリキュラムと対照的な関係にある、隠れたカリキュラムがあることを論じた。顕在的カリキュラムは教育目標と深く関係し、これにより教科書⁶⁾が書かれ、教授要目が開発され、教授要目を教えるために教師は訓練される。そのため、「意図される学習内容」と捉えることができる。

これに対し、隠れたカリキュラムは、学校が組織される仕方や管理者—教師—生徒間の関係を通して学習される内容である。すなわち、学校組織文化や学校成員の相互作用といった、顕在的カリキュラムを学習するために不可欠な学習環境、あるいは方法を通して学習される内容である。顕在的カリキュラムと対照的な関係にあるため、「意図されない学習内容」と捉えることができる。

隠れたカリキュラムは時間、秩序、整然性、迅速性、従順さに関連する多くの内容を教える点で、高度産業社会にとって非常に効果的なカリキュラムである。隠れたカリキュラムは職業の取得と維持、社会維持・政治的安定性の維持に必要な属性の多くを発達させる点で、社会化機能と社会維持機能を持つ。

隠れたカリキュラムが教える課業は、次の二点の理由から、顕在的カリキュラムよりも効果的である。第一点は、毎日経験され強固に学習される点である。第二点は、殆ど言語化されたり、正当化されたりしないものの、生徒と教師の行動においてははっきりと説明されているからである。そのため、ブルームは隠れたカリキュラムの効果を考慮し、顕在的カリキュラムと隠れたカリキュラムとの関係を認識し分析することを提起する。

わが国にブルームの隠れたカリキュラム論を紹介したのは、西村(1978)である⁷⁾。西村は、ブルームの隠れたカリキュラムが顕在的カリキュラムとの相乗あるいは競合の結果生じる作用を考えると、その概念として固有の意味を持つこと、「無意図的教育」の作用を社会維持機能と密接に結びつける点において認識的意義を持つことを述べる。前者は、1990年代に始まる教科教育研究の立場からの隠れたカリキュラム研究に引き継がれた(例えば、森本(1998)、

大高 (1998), 林 (1998), 森藤 (1998), 根本 (1998))。後者は、「無意図的教育」と概念化されるにとどまってきた学習内容を、学校の子どもの社会化機能に関連させることで、インパクトのある主張として受け止められた (例えば、片岡 (1982))。

筆者は、ブルームの隠れたカリキュラム論の意義は、教育目標や教授要目には明確に関連しない隠れたカリキュラムに着目し、その学習効果の強さを指摘したことにあると考える。これにより、教師は「意図される学習内容」である顕在的カリキュラムだけでなく、「意図されない学習内容」である隠れたカリキュラムを考慮するようになり、生徒の立場に立って、より重層的に自らの教育実践を振り返ることが可能になった。

しかし、具体的にどのような内容を教えるのか⁸⁾、ポスト産業社会にとって隠れたカリキュラムはいかなる意味があるのか⁹⁾ について、ブルームの隠れたカリキュラム論は言及しない。また、顕在的カリキュラムと隠れたカリキュラムが競合する場合、いかにして社会維持が可能となるのかといった問いに答えようとする、論理矛盾を引き起こす。なぜなら、顕在的カリキュラムは社会維持機能に即した学習内容から構成されるのに対し、隠れたカリキュラムは社会解体機能に即した学習内容となるからである。隠れたカリキュラムは顕在的カリキュラムよりも学習効果が強い、社会は維持されず解体されていくはずである。

3. 意図を捉える困難

もう一つの最も大きな問題は、意図の有無をどのように客観的に判断することができるのかということである。マーティン (Martin, 1976) は、隠れたカリキュラム概念のあいまいさの原因を意図の有無を軸にすることに求める。マーティンが補足するには、意図に関する適切な研究はない。隠れたカリキュラムのあらゆる要素は意図されないものであると考えることができるものの、本当にそうなのか誰も知ることができない。

マーティンは、隠れたカリキュラムが特定の学習者、あるいはすべての学習者によってなしとげられる一連の学習状態を指すのではなく、優勢な学習状態の中に構成される学習状態であること、そのため、隠れたカリキュラムは学習者にとってほんやりしていることを論じる。また、隠れたカリキュラムの「隠されていること」(hiddenness) について、隠されていること

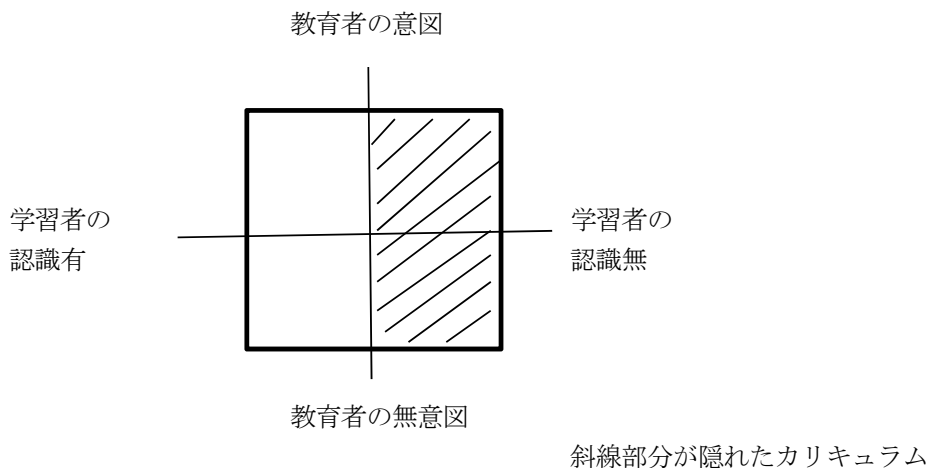


図1 マーティンの隠れたカリキュラム論

は関係にあるとして、ある人、あるいはある集団から隠されているものは他の人や他の集団から隠されていないと論じる。これらの議論を踏まえて、隠れたカリキュラムを「意図されないものでも意図されたものでもなく、学習者によって公然と認識されないもの」と定義する。

ゴードン (Gordon, 1988) も、意図が概念的に困難を伴うことを指摘し、マーティンの隠れたカリキュラム定義を継承する。ゴードンは先の研究 (Gordon, 1984) で展開した、隠れたカリキュラムが理科の「バケツ」イメージを伝達するという主張を、その裏付けに用いている。理科の「バケツ」イメージとは、多くのことを学習し、あらゆる経験が意識をとおして受け取られた情報を構成するというバケツ理論の重要な命題に示唆を受け、理科が事実の集合からなることを意味する。

ジェンダー・フリーな教育も、「教師は性差別しようと意図しているわけではない」という「良心的教師像」を出発点に、教師のジェンダー・バイアスな意識によって生じるセクシズムを隠れたカリキュラムとして描き出したといえる。しかし、「良心的教師像」は教師の理念型であり、本当に性差別しようと意図していないのか、明らかではない。

隠れたカリキュラムの無意図性の強調は事実、隠れたカリキュラムをあいまいにさせている。グラットホーン (Glattohorn, 1999) は、隠れたカリキュラムを意図しないカリキュラム、生徒が学校文化や学校環境、関連した諸方策や実践から学習する内容と定義する。そして、隠れたカリキュラムとは別に、教師が実際に伝達するカリキュラムである教えられたカリキュラム、生徒が学習する「最下部」カリキュラムである学習されたカリキュラムを位置づける¹⁰⁾。学習されたカリキュラムと隠れたカリキュラム、教えられたカリキュラムと隠れたカリキュラムとは明確に境界づけられないにもかかわらず、別のカリキュラムと捉えられる。

4. 意図された隠れたカリキュラムの理論的・実践的基盤

意図された隠れたカリキュラムの理論的基盤は、ポータリ (Portelli, 1993) に求めることができる。ポータリは、隠れたカリキュラムの「隠れた」(hidden) という用語に着目し、「Xが隠れている」ことの意味として、以下の二つの可能性があることを論じる。

- ① Xは誰か (Y) から隠されている。エージェントYはXが隠されていることを知っている。Xがどこにあるかも知っている。この場合、Xは進んでエージェントになるか、物事になるかのどちらかである。
- ② Xは隠れている。Xは無意図的に隠れている。誰もXを隠そうと思わない。Xは自らが実際に隠れていることを知らないことはありうる。Xは進んでエージェントになるか、物事になるかのどちらかである。

前者の可能性について、ポータリは「隠されていること」(to be hidden) が関係の表現であると述べ、XはBからではなくAから隠されていると述べる¹¹⁾。そして、隠れたカリキュラムの「隠れたこと」(hiddenness) がとりうる意味として、A教師によって意図されないことと、B教師によって意図されることの2つのカテゴリーが含まれると論じる。そして、B教師によって意図されることを以下の4つの場合に分ける。①隠れたカリキュラムは教師に認識されない。②隠れたカリキュラムは生徒に認識されない。③隠れたカリキュラムは教師に認識される。④隠れたカリキュラムは生徒に認識される。さらに、両者を関連させて、以下の4つの状況を指摘する。

状況1：B.1.2 教師は隠れたカリキュラムを持ち込むことを意図するにもかかわらず、教師あるいは生徒のどちらかは隠れたカリキュラムを認識しない。

状況2：B.2.3 隠れたカリキュラムはそれを認識する教師によって意図される。生徒は隠れたカリキュラムを認識しない。そのため、隠れたカリキュラムは生徒に隠れている。

状況3：B.1.4 隠れたカリキュラムは教師によって意図され、教師に認識されないが、生徒に認識される。

状況4：B.3.4 隠れたカリキュラムは教師によって意図され、教師にも生徒にも認識されるが、現実のカリキュラムではあるものの公式的カリキュラムの部分ではないという意味で隠れている。

ポーターは、隠れたカリキュラムとなるために、故意に隠されることは必ずしも必要ないとして、隠れたカリキュラムは何かしら陰謀を意味しないことを論じる。そして、フォーマルなカリキュラムが故意による特徴づけられるため、隠れたカリキュラムから故意が抜け落ちてしまうと述べ、故意あるいは意図してなされることが隠された方法でなされることと必ずしも対照ではないことを論じる。

ポーターが補足するには、意図しない結果としての隠れたカリキュラムは、既に規定された目的に対抗するもの、あるいは予想されないが実際に教育全体であるものを暴露するために描写されてきた。しかし、誰かにとって意図されない結果であるものは、別の誰かにとっては、隠されているものの、意図され望まれるものである。

4つの状況のなかで興味深いのは、教師によって意図され、教師にも生徒にも認識される状況4である。状況4では、隠れていることはフォーマルなカリキュラムあるいは公式カリキュラムに含まれない、公的な知識から保留されていることによって生じる。ここで鍵になるのが、広い目的と特殊な目的の区別である。広い目的はフォーマルなカリキュラムあるいは公式カリキュラムに含まれる。とするならば、隠れたカリキュラムは特殊な目的を教えるものと捉えることができる。

教師によって意図される隠れたカリキュラムの存在は、学校現場からも指摘されている。ガットー (Gatto, 1992) は英語教師の立場から、英語を教えたのではなく、以下の7つの課業を教えたと論じる。

- ①混乱 (confusion)：教えることにはまったく脈絡がない。何もかも関係なく教える。まとまりのなさを教える。惑星の軌道、大数の法則、奴隷制、形容詞、設計図、ダンス、体育館、合唱、集会、びっくりゲスト、避難訓練、コンピューター言語、保護者会、教員研修、個別プログラム、転校生へのガイダンス、標準テスト、年齢別のクラスなど、多すぎることを教える。
- ②クラス分け (class position)：生徒に所属するクラスにいなければならないことを教える。生徒は番号がつけられ、逃げ出しても、所定のクラスに戻せるようになっている。
- ③無関心 (indifference)：生徒が何かに興味を示しても、あまり夢中になりすぎないように教える。
- ④感情的依存 (emotional dependency)：星印や赤色のチェック、微笑み、賞、表彰、不名誉によって、生徒に教師の束縛に喜んで身を任せるように教える。
- ⑤知的依存 (intellectual dependency)：良い生徒は、教師が生徒に何をすべきか言うのを

待つ。教師だけが子どもが学ばなければならないことを決定することができる。

- ⑥条件付きの自尊心 (provisional self-esteem) : 子どもに、自分の価値は専門家の意見に負うべきであることを教える。子どもは一貫して評価され判断される。
- ⑦隠れることができないこと (one can't hide) : 生徒に常にみられていること、個々の生徒が私や同僚による一貫した監視の下にあることを教える。生徒に私的な空間や私的な時間はない。

ガッターによると、7つの課業はアメリカ中どこにいても普遍的に教えられている。それらはいわば、ナショナル・カリキュラムを構成している。学校制度の歴史を振り返ると、7つの課業は下層階級の人々をとどめておく主要な訓練であった。しかし、やがて貧しい人々を管理するという本来の目的から拡大し、1920年代以来、貧しい人々だけでなく中流階級の子女も巻き込んだ。

「目的」という用語に象徴されるように、7つの課業は古くは公式的カリキュラムに他ならなかった。学校制度が拡大されるなかで、7つの課業は隠れたカリキュラムとして隠されていったといえる。さらに、ガッターはアメリカの伝統的な教育制度にあった3つの目的、すなわち、①善良な人間を育てること、②善良な市民を育てること、③生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばすことが、1890年以降に導入された新しい集団教育により、④子どもたちを企業や政府のために奉仕させること、という第四の目的に置き換わったことを述べる。

ゴーズ (Gose, 1999) は、職業世界に入るときに助けとなる失敗への恐れを強調しなかったこと、教師の権威に従うよりも個々の責任を負うことを生徒に促したこと、他の教師ほど従順を価値づけなかったこと、その代わりに競争を強調したこと、協同的な課題を通じて独立の規範を維持したこと、階級に関係なく生徒にできるだけ多くの機会を与えたことなど、従来の隠れたカリキュラム論で言及されてきた学習に対抗する学習を描写する。ゴーズはこれらの隠れたカリキュラムの描写を通して、教師が故意に隠れたカリキュラムを利用する一歩を提供する。

直接的に隠れたカリキュラムを教えたことを明確にする研究もある。ヘイエス (Hayes, 2003) は、「誰でも知っている」学校教育の特徴として、隠れたカリキュラムを捉える。英語を第一言語としない生徒が教師の指示にいつも尊敬しないトーンで“yeah”と答えることに対して、大人に話すとき“yeah”は無礼な言葉であることをわからせるのに長い時間を要したこと、なぜ“yeah”がふさわしくないのかを説明するのに、通訳を必要としたことを述べる。また、クラスで繰り返しひどい悪口¹²⁾を言った生徒の例を挙げ、何が教室で衝撃を与える言葉なのか、あるいは不適切な言葉であるのか、直接的に教えたことを論じる。直接的に隠れたカリキュラムを教えたのは、英語を第一言語としない生徒が英語の隠れたカリキュラムを知らないためであると考えられる。

隠れたカリキュラムを教える戦略を明らかにする研究もある。マイルズ、トラウトマン、シェルヴァン (Myles, Trautman, Schelvan, 2004) は、隠れたカリキュラムを効果的に教える戦略として、社会的スキルを教えるために用いられる教師主導の状況—選択肢—結果—選択—戦略—シミュレーション戦略、探求する—観察する—聞く—言葉で表現する—教育する戦略、社会的ナラティブ、マンガ、名刺あるいはトレーディングカードの大きさで、関連のある絵と解決の概要から構成されるパワーカード戦略、社会的批判分析、直接的な教授、1日1事項、5点尺度、ビデオ模倣を挙げる。そして、学校に関連する隠れたカリキュラム事項¹³⁾として、トイレに関する事項、ロッカールームの決まり、休み時間あるいは体育、ロッカーとホール、ラン

チルーム、避難訓練、ダンス、宿題、図書館、教師に話すときのルール、教室でのルール、行動、いじめ・告げ口を挙げる。

5. 隠れたカリキュラムの再提起

概観してきたように、教師によって意図される隠れたカリキュラムがあると考えられる。ガットーのように、子どもを考えない人間にさせるという意図を隠すため、隠れたカリキュラムは隠れるという、隠れたカリキュラムを罪悪視する研究¹⁴⁾もあるものの、隠れたカリキュラムを積極的に捉える研究が優勢であることに留意する必要がある。このことは、隠れたカリキュラムが教師にとって不可欠であることを示唆する。

これを受けて、隠れたカリキュラムの捉え方について、以下の4つの命題を設定することができる。

命題1 隠れたカリキュラムは、教師が生徒に習得することを期待する能力、あるいは規範である。マイルズ、トラウトマン、シュルヴァンが挙げた戦略の殆どは、生徒の社会的能力を発達させるためのものである。ハイエスの“yeah”に対する指導やひどい悪口を言った生徒への指導も、文化的抑圧の側面があるものの、生徒が英語圏の社会に適応するためのものである。それらの能力、規範はより大きな社会、あるいは職業世界に適合的な能力、規範もあれば、必ずしも適合的でない能力、規範もある。

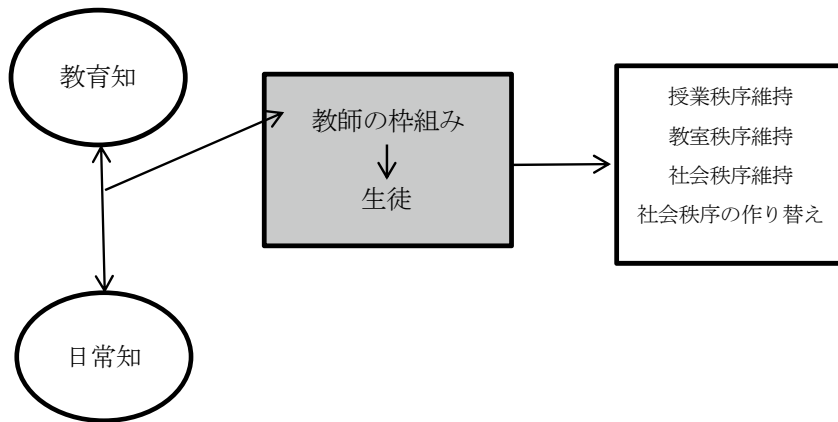
命題2 隠れたカリキュラムは、教師の枠組みから生じる。“yeah”は、英語を第二言語とする生徒が発された言葉と認識されながらも、教師を不快にさせる。そこには、「教師に“yeah”を用いるのはふさわしくない」とする教師の枠組みがある。マイルズ、トラウトマン、シュルヴァンも、教師と話すときのルールの一つとして、「友人と話すこととは異なる方法で話しなさい。」を指摘する。命題1と関連して、教師の枠組みは個々の教師により異なる。「何を教えるかは個々の選択である」(Myles, Trautman, Schelvan, 2004, p.9)。

命題3 隠れたカリキュラムは、教師の教師戦略である。ガットーが挙げたクラス分けも、教師がクラス規模やクラスに誰がいるかを想定して、授業を展開するためのものでもある。命題2と関連して、教師は隠れたカリキュラムを通して、最もマイクロな側面では教師としての枠組みを保持し、授業秩序・教室秩序を維持する。命題1と関連して、最もマクロな側面では社会秩序を維持する、あるいは既存の社会秩序を作り替える。教師が教師戦略を行使する背景には、命題2で述べた教師の枠組みがある。

命題4 隠れたカリキュラムは、教師が教師としてだけでなく一人の個人として生きるなかで経験され蓄積される日常知はもちろんのこと、教師が教える公式的カリキュラムの背後にある、あるいはその他の教育知からも構成される。日常知、教育知は一樣ではなく、矛盾した知が存在する。これらの知識の相互作用は、教師の枠組みを通して、隠れたカリキュラムとして出現する。

4つの命題を止揚すると、隠れたカリキュラムは「教育知、日常知といった知識の相互作用を背景に、教師の枠組みから生じる、教師が生徒に意図的に教える能力、あるいは規範、教師

が意図的に行使する教師戦略」であると定義できる。



灰色に塗りつぶした部分が隠れたカリキュラム

図2 隠れたカリキュラムが生じる過程と作用

6. 結論

本論文は、隠れたカリキュラムを「意図されない学習結果」として捉える隠れたカリキュラム論の系譜として、ブルームの隠れたカリキュラム論を概観し、具体的に学習される内容が言及されないこと、変化する社会における隠れたカリキュラムの意味が明確にされないこと、隠れたカリキュラムが顕在的カリキュラムと競合する場合、社会維持機能が発揮されないこと、意図の有無を客観的に判断することができないことを批判した。そして、意図の有無に関連して、ポーターの隠れたカリキュラム論を概観し、教師によって意図される隠れたカリキュラムがあることを理論的に跡付けた。さらに学校現場の立場からの隠れたカリキュラム論を概観し、教師が意図的に隠れたカリキュラムを教えることを実践的にも明らかにした。

意図される隠れたカリキュラムがあることを踏まえ、隠れたカリキュラムを「教育知、日常知といった知識の相互作用を背景に、教師の枠組みから生じる、教師が生徒に意図的に教える能力、あるいは規範、教師が意図的に行使する教師戦略」と定義した。規範としての隠れたカリキュラムは、ジャクソンに遡ることができるが、本論文は規範だけでなく、「公式的カリキュラムで教えられる内容」と捉えられる傾向が大きい能力も、隠れたカリキュラムであると捉える。教師戦略を隠れたカリキュラムと捉えることは、教師が教師役割を果たすために、隠れたカリキュラムが不可欠であることを意味する。

このことは、隠れたカリキュラムを従来の隠れたカリキュラム論のように、学習者の側から捉えるだけでは、隠れたカリキュラムの解明につながらないことを示唆する。教師がどのような状況の下で、生徒に隠れたカリキュラムを認識させるのか、あるいは認識させないようにするのか、「誰」から隠れたカリキュラムを隠そうとするのか、といった問いに答えていくことが隠れたカリキュラム研究の発展にとって重要である。

また、規範、教師戦略としての隠れたカリキュラムが既存の秩序を維持するだけでなく、作り替える機能を持つことも重要である。後者の機能を発揮するには、教師が常に自己の枠組みを批判的にみつめ、作り替えることが必要である。隠れたカリキュラムは、教師がこの課題に

取り組む際の航路の役割を果たすものでもある。

- 1) その名残は「履歴書」(curriculum vitae)という言葉にみられる。
- 2) デューイの「付随的な学習」を隠れたカリキュラムと捉える研究もある。
- 3) 日本カリキュラム学会では、平成19年度から平成22年度の3年間にわたり、隠れたカリキュラムの捉え方が定まっていなかったため、隠れたカリキュラムの捉え方を議論することをねらいに、課題研究が設定された。
- 4) 引用した田中は、隠れたカリキュラム概念をわが国に最初に紹介した論者として評されている。引用箇所は新版の定義である。長尾も、隠れたカリキュラムの論者として評され、日本カリキュラム学会の課題研究において、指定論者として登壇している。
- 5) ジェンダー・フリーな教育の概念が浸透する契機となったのは、1994・1995年度に東京女性財団によって行われた、男女平等教育推進のための教師用教材開発プロジェクトである。2000年頃からはバックラッシュにより、「ジェンダー・フリー」の用語を使わないとされ、「ジェンダー」の用語も忌避されている。
- 6) 教科書にも隠れたカリキュラムは存在するという考えもある。筆者も同じ考え方である。
- 7) 細谷俊夫他編『教育学大事典』第一法規出版、1978に掲載されたことから、その後の隠れたカリキュラム研究に大きな影響を与えた。
- 8) 「教育学の無知」として、7項目挙げた1項目として、隠れたカリキュラム論が展開されていることに起因すると考えられる。
- 9) この問いは、筆者が第71回日本教育学会大会(2012)において、ブルームの隠れたカリキュラム論を超えて、意図的な教育実践の隠れたカリキュラムを提起した発表を行った際、司会者の名古屋大学渡辺雅子氏によって発された。この問いに気づかせてくれた渡辺氏に謝意を表したい。
- 10) カリキュラムの8つのタイプとして言及されている。他には、排除されたカリキュラム、推奨されたカリキュラム、書かれたカリキュラム、サポートされたカリキュラム、テストされたカリキュラムがある。
- 11) 「隠れていること」は関係の表現であるとする、マーティンの隠れたカリキュラム論を継承している。
- 12) その生徒の出身文化においては、その言葉は教師が考えるほど「ひどい悪口」であるとは考えられていない。
- 13) 飛行機での旅や誕生日パーティなど、学校外の隠れたカリキュラム事項も挙げられている。発表者は「隠れたカリキュラム」という用語で、学校に関連するものを捉える。
- 14) 問題意識で挙げた、ボウルズとギンタス、アップルといったラディカルな隠れたカリキュラム論と共通する。

参考文献

- 赤沢早人、2011、「カリキュラムの基礎理論」北野幸子編著『保育課程論』北大路書房、pp.1-11。
Apple.W.M. (1979). *Ideology and Curriculum*. Boston: Routledge& Kegan Paul
(=1986、門倉正美他訳『学校幻想とカリキュラム』日本エディタースクール出版部)。
Bloom, S. B. (1972=1985). *All our children learning*. U.S.A : McGraw-Hill
(=1986、稲葉宏雄・大西匡哉監訳『すべての子どもにたしかな学力を』明治図書)。

- Bobbitt, F. (1918=2010). *The Curriculum*. Charleston, U.S.A.: Biblio Life.
- Bowles, S. & Gintis, H. (1976). *Schooling in capitalist America: Educational reform and the contradictions of economic life*. New York: Basic books.
(=2008, 宇沢弘文訳『アメリカ資本主義と学校教育 I—教育改革と経済制度の矛盾』岩波書店).
- Dewey, J. (1902). *The child and the curriculum*.
(=1998, 市村尚久訳『学校と社会・子どもとカリキュラム』講談社).
- Dewey, J. (1899). *Experience and education*.
(=2004, 市村尚久訳『経験と教育』講談社).
- Gatto, J.T. (2002). *Dumbing us down: The hidden curriculum of compulsory schooling*. Gabriola island, Canada: New society publishers.
- Glatthorn, A. A. (1999). Curriculum alignment revisited, *Journal of curriculum and supervision*. 15, 4, pp.35-42. .
- Gordon, D. (1984). The images of science, technological consciousness, and the hidden curricula, *Curriculum Inquiry*. 14 (4), pp.367-400.
- Gordon, D. (1988). The rebirth of the hidden curriculum: Phlogiston as Priestley might explain it to Lavoisier, *Curriculum Inquiry*. 18 (4), pp.465-470.
- Gose, M.D. (1999). *Creating a winning game plan: The secondary teacher's playbook*. California: Sage.
- Hamilton, D. (1989). *Towards a theory of schooling*. London: Falmer Press
(=1998, 安川哲夫訳『クラス・カリキュラム・一斉教授の思想と歴史』世織書房).
- 林秀雄, 1998, 「潜在的カリキュラムを配慮した理科指導の視点」『理科の教育』第47巻, 第2号, pp.12-15.
- Illich, I. (1970). *Deschooling society*. New York: Harper&Row.
(=東洋・小澤周三訳『脱学校の社会』東京創元社, 1977).
- Jackson, P. (1968). *Life in Classrooms*. California: Holt&Rinehart and Winston.
- 片岡徳雄, 1982, 「カリキュラム社会学の検討—研究枠組を中心に—」『教育社会学研究』第37集, p.47-56.
- 森藤義孝, 1998, 「潜在的カリキュラムに配慮した理科指導の視点」『理科の教育』第47巻, 第2号, pp.16-19.
- 森本信也, 1998, 「潜在的カリキュラムが開く子どもの学び」『理科の教育』第47巻, 第2号, pp.4-7.
- 森田栄蔵, 2005a, 「『いじめ指導』に見る隠れたカリキュラム (1)」『月刊生徒指導』2005年5月号, pp.34-37.
- 森田栄蔵, 2005b, 「『いじめ指導』に見る隠れたカリキュラム (2)」『月刊生徒指導』2005年6月号, pp.34-37.
- Myles, B.S. , Trautman, M.L, Schelvan, R.L. (2004). *The hidden curriculum: Practical solutions for understanding unstated rules in social situations*. Shawnee Mission, America: Autism Asperger Publishing.
- 長尾彰夫, 1996, 『[提言: 21世紀の教育改革2] “学校文化”批判のカリキュラム改革』明治図書.
- 根本和成, 1998, 「潜在的カリキュラムに配慮した理科指導実践—高等学校—」『理科の教育』第47巻, 第2号, pp.32-35.
- 西村俊一, 1978, 「潜在的・顕在的カリキュラム」細谷俊夫他『教育学大事典』第一法規出版, pp.93-94.
- 大高泉, 1998, 「理科教育における潜在的カリキュラムの意義とその意味」『理科の教育』第47巻, 第2号, pp.8-11.
- Portelli, J. P. (1993). Exposing the hidden curriculum, *Journal of curriculum studies*. 25, pp.343-358.
- 柴田義松, 2001, 「カリキュラムの概念」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』ぎょうせい, pp.1-2.
- Stubbs, M. (1976). *Language, Schools and Classrooms*. London: Methuen.
- 田中統治, 1999, 「カリキュラムの社会学的研究」安彦忠彦編『新版 カリキュラム研究入門』劉草書房, p.65-86.

Abstract

This paper aims to make clear the existence of an intentional hidden curriculum and define the hidden curriculum. First, this paper criticizes hidden curriculum arguments that regard hidden curriculum as unintentional learning outcome. Since these arguments can go up Bloom, this paper reviews Bloom and shows that the biggest problem is the difficulty in judging whether there is intention or not.

Second, this paper investigates into intentional hidden curriculum. Portelli argues about the hidden curriculum which is intended by teachers. Some teachers have demonstrated intentional hidden curriculum and show a list of strategies to teach them.

Third, this paper defines hidden curriculum as skills or norms which teachers intentionally teach, or the teachers' strategy which teachers intentionally exercise, that arise from teachers' frame and are the background of interactions between everyday knowledge and educational knowledge.

